







技術開発実施報告・計画

熊本営林局

課題	高品質材生産林における若齢林の枝打ち技術の確立（その2）	継続	担	指導普及課	開発	森林技術センター
目的	高品質材生産林（ヒノキ、ケヤキ）における若齢林分の枝打ち方法を解明し、高品質材生産の技術の確立を図る。	自主	当		箇所	1 班
		開発期間	平成 8 年度 ~ 平成 13 年度			
年度別実施経過		9 年度実施報告		10 年度実施計画		備考（評価及び普及計画等）
<p>1 試験地設定（平成8年度）</p> <p>(1)場所,面積,樹種 去川国有林254は1林小班 0.30ha ヒノキ 0.1ha, ケヤキ 0.2ha</p> <p>(2)試験対象木 各樹種40本(根元に番号杭で表示)</p> <p>2 枝打ちの方法（平成8年度）</p> <p>(1)ヒノキ・・枝打ち高さ4タイプに分ける ①枯枝打ち②樹高の1/2③樹高の3/5④力枝残し</p> <p>(3)ケヤキ・・除伐全刈区,高刈区,坪刈区,無除伐区に分け各7°トット5タイプ ①幹に密着 ②幹に45度,35度 ③幹から0.5cm④幹から1cm⑤幹から2cm 残して切断</p> <p>3 試験地表示（平成8年度） 全体表示板1基（1.5m * 1.0m）</p> <p>4 調査事項（平成8年度）</p> <p>(1)枝径の測定(仔ヶシ,ヶヤ)・・最小径・最大径 (2)枝打後の枝下高,胸高直径,樹高,枝張り(ヒキ) (3)試験木全景の写真記録</p> <p>5 実施に当たっての検証（平成8年度） ヒノキ・・・枝打の高さによる樹勢への影響 仔ヶシ,ヶヤ・・枝打方法の違いによる巻込み状況,腐れの侵入状況</p>		<p>1 巻込み状況調査 各樹種の調査木を撮影し現況の記録整理を行った。スライドも作成。</p> <p>2 実施結果</p> <p>(1)ヒノキ・・枝打ち4タイプとも現段階では樹勢への影響は見られない。</p> <p>(3)ケヤキ・・幹に密着,幹に45度,幹に35度の角度で切断したものはいずれも腐れも見られず巻込み良好。</p> <p>○ 幹に密着タイプが切断面の巻込みが早い。幹から枝を残すタイプは3タイプとも残した枝から不定枝が発生した。</p> <p style="text-align: right;">（基職 1 人）</p> <p>事業費（技術開発） _____ 千円</p>		<p>巻込み状況調査</p> <p style="text-align: right;">（基職 9 人）</p> <p>事業費（技術開発） _____ 千円</p>		